

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)メガガイア 大袋店 新築工	階数	地上5F
建設地	埼玉県越谷市	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集会所,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2018年2月8日
敷地面積	8,897 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社河野設計福岡一級建築
建築面積	3,605 m <sup>2</sup>	確認日	2018年2月8日
延床面積	14,176 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社河野設計福岡一級建築



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 2.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネ・省資源に可能な限り取り組むとともに、間取りの変更など、将来に向けてフレキシブルに対応可能な計画とした。また選定する部材に関しては、耐用年数が長いもの、維持管理の容易な部材を積極的に採用した。	その他 特に無し
Q1 室内環境	遊技場部分は温熱環境に配慮し極力窓を設けない計画としたほか、遮音性能に優れた窓を採用することで、近隣へ音が漏れにくくなるよう計画した。また、シックハウス対策として、F☆☆☆☆の建材を全面的に採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 道路沿いや一部外壁に植栽を計画したほか、道路及び隣地との距離を極力確保することで通行者に圧迫感を与えない建物となるように配慮した。
LR1 エネルギー	LED照明やヒートポンプ式エアコンなどの高効率機器を採用することで、省エネルギー性に配慮し環境負荷の低減を図った。また、全熱交換器を採用し、給排気に伴う熱のロスを抑える計画とした。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を建物内で採用しないことで、大気汚染物質の発生を抑え、地球環境に配慮した。
Q2 サービス性能	内装部材については、耐用年数の長いものを採用したほか、長期に建物を使用するにあたり、維持管理が容易な部材の選定及び室の配置計画を行った。	
LR2 資源・マテリアル	発泡系の断熱材自体を採用しないことで、地球環境負荷の低減を図った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
(仮称)メガガイア 大袋店 新築工事(遊技場棟)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.33</b>			<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.8</b>	0.20			<b>3.8</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		開口部の遮音性能:T-3				5.0	1.00			
2 界壁遮音性能						-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-			
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.3</b>	0.47			<b>2.3</b>
2.1 室温制御						<b>2.5</b>	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						1.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						-	-			-
3.1 昼光利用						-	-			
1 昼光率						-	-			
2 方位別開口						-	-			
3 昼光利用設備						-	-			
3.2 グレア対策						-	-			
1 昼光制御						-	-			
3.3 照度						-	-			
3.4 照明制御						-	-			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.7</b>	0.33			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用				4.0	1.00			
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.50			
2 自然換気性能						-	-			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50			
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		喫煙ルームは他の空間と区画し、換気扇を設けて常に負圧に保っている				5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>			<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.6</b>	0.40			<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性						-	-			
2 高度情報通信設備対応						-	-			
3 バリアフリー計画						3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性						<b>4.0</b>	0.30			
1 広さ感・景観						-	-			
2 リフレッシュスペース						-	-			
3 内装計画		インテリアパースによる内装設計の事前検証を行っている				4.0	1.00			
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		維持管理の容易な内装材を選定している				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		共用部から諸設備の維持管理が容易に行える配置計画としている				4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.2</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		塩ビシートの採用(耐用年数:20年)				5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を採用し、Eは不採用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			2.0	0.41	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.08		5.0	0.59	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.37</b>	-	-	<b>2.3</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>2.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	0.07	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.12	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.89		<b>2.5</b>	0.58	-	-	<b>2.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.23	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.5</b>	0.60	-	-	<b>2.5</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤が含まれた断熱材を採用していない		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2:94%		<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を採用していない		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	車の進入箇所を複数確保し、道路渋滞緩和について考慮している		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)メガガイア 大袋店 新築工事(遊技場棟)	BEE	0.8	BEEランク	★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.2	+	2.3	=	5.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.2
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.2
空調機器はヒートポンプ式熱源のものを採用したほか、給湯器などの燃焼を伴う機器を計画しないことで、地球温暖化に寄与した建物となるように配慮した。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
建物の一部に壁面緑化を採用することで、夏季における日射侵入の抑制を図った。			

: 入力欄